

第1回 名古屋港魚釣り施設あり方検討委員会 議事概要

(1) 委員長挨拶

名古屋港は取扱貨物量等では日本一であるが、集客等の点に関しては他港より見劣りする部分がある。魚釣り施設の検討は市民が親しみ、楽しむことができる港づくりの一環だと思う。是非、忌憚のないご意見を頂戴したい。

(2) 主な質問・意見

- ・旧名古屋港海づり公園（以下「旧海づり公園」）の安全面と釣り人のゴミ投棄等の環境面での対策は？
安全面では転落防止用の手すり・落雷対策設備・監視カメラ等を設置し、釣り団体による安全指導等があった。環境面の対策では、指定管理者による管理以外に、釣り団体による清掃活動やマナー指導等が行われていた。
- ・旧海づり公園は24時間、駐車場料金のみで利用でき、他所の施設に比べ非常に優れていた。また、温排水の影響も魚釣りをする上で良い環境であった。新しい施設の検討においても配慮して欲しい。
- ・旧海づり公園で釣られた魚は食べられていたのか？
魚体が小さなものは食用に向かず、食べられていたのはおおよそ5割程度だった。また、キャッチ&リリースを前提とした「ゲームフィッシング」も行われていた。
- ・基本方針第3項目「緑地や護岸の一部を活用した施設も対象として検討を行う」の意味は？
施設を新たに整備する以外に、緑地の水際線や埋立地の護岸の一部を利用した魚釣り施設の整備も検討するという意味である。
- ・規模の大きい1箇所での整備でなく、釣れる魚種や利用者層に合わせて中小規模の施設を複数整備することも考えられる。
必ずしも1箇所に絞り込むわけではない。まずは今回選定した9箇所の魚介類調査候補地の中から、魚介類調査を実施する箇所を絞り込みたい。
- ・港湾物流の集積基地に於いてはトレーラー等の大型車両と釣り客の一般車両との事故が懸念される為、交通の視点でも安全面に十分配慮して選定することが必要である。
- ・魚釣り施設の設置は、港の物流・環境・防災を身近に感じてもらうきっかけにもなる。港の本来の機能と釣り施設を完全に分断してしまうのではなく、複数の目的を持つ施設になるとよい。

- ・ 釣り施設の建設に要する期間はどれくらいか？
旧海づり公園を整備したときの補助制度もなくなっており、整備内容によって変わってくる。
- ・ 施設候補地選定の検討には供用開始までの時間も考慮すべき。
- ・ 候補地の選定基準については、実際に魚が釣れることが第一条件となる。選定の流れを整理することが必要だ。
- ・ 潮流、水温、水質は選定基準とはならないか？
魚介類調査候補地ごとに潮流などのデータがない為、調査箇所の選定の過程では、主に期待される釣果から評価することになる。魚介類調査においては水底質も測定することを想定している。
- ・ 施設候補地の最終選定が行われる時期はいつか？
候補地の選定は平成 26 年度末に開催する第 3 回委員会で行うことを想定している。
- ・ 将来、埋立を行う地点での魚介類調査には意味があるのか？
埋立の前後では環境変化も想定されるが、河川の流入や、防波堤の内外など、前提となる大きな環境は変化しないと考えており、釣れる魚の傾向はある程度つかめるものと考えている。
- ・ 施設候補地選定の基本方針や魚介類調査箇所の選定基準について、委員から頂戴した意見を踏まえて、作業を進めてほしい。

以上